



新刊
兩吟百員
全



泡沫千ききしく世をえくあふまはるる
ふたつをては不朽の書ありとも人の心
あつし一町松風かきこえりともなるまはるる
傳ふまの二書あり買ひぬまかよわれとせり
むらあ人をありされと延家の此の風調をれ
そのゆりふらりして思ひとまらぬまはるる
あれと舞の舞池まはるるのまはるる
味いふ人もは亦一助ふらんと極まると

武藏國江戸住
三浦海園書

そ候より一々又當時の人くわく白くそを
とひ入く梓ふらりやを免くはてぬ六の
し一兩午此秋七月下旬なりを

獨居書

寛貞

色其や巨之角よほくはるおま
らととらりり一極入下路 松風
よその桶をさけはる神杯
らぬりこくくくくくくくくくくく
或時を解よ詠りて空おて
猿子とくくくくくくくくくくく
朝日新は根おはるたわき
風

勢乃向となくの末乃白法也
乃市さの心通ひつたか
何一形にう定み可なり
中もか
一村さの纏解より
途二向く好む
音取負みねも好

小舟静河舟に花を
風白小使を海
一吹舟
舟乃好想也
乃乃
乃乃

此の松はみまの神みまのに
ついで流るる香川は月
を拭くやうな流るる流
の松は花の流るる流るる
少くは計りかねる海に流るる
流るる流るる流るる流るる
用障八大地とてなり大砂浜也

うねる流るる流るる流るる
かゝる流るる流るる流るる
味も流るる流るる流るる
三十二の流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる
流るる流るる流るる流るる

二句虫
とすん

うさほ岸みは海草大乃流ゆ
ちなまて流ゆる橋神々

とまらむや

あふり
あふりや

柳葉一葉乃ち花れを

明もあふるを打とて

新調

ま令るい〜お借やんぬ

折信々新よまゝのこ〜
新あらしら〜おまはる

とまらむやとすん
え編七の〜松風は保田の七色紙の
懐存字八の〜
死生あつらひき
はあし根林と〜
うねもあつらひき
あふりや

つる人のいりく春ハ正保元年ニ生れり
考々ノ實永正五年甲申十二月用之り
正保十一年ノ生れりこれハ實永正五年
別正保元年ノ生れり生れ月ノ生れ月
同生り

又つる人の白翁ハ五十二歳ノ生れり
生れ月ノ生れり生れ月ノ生れ月
生れ月ノ生れり

古今混雜四禾子發句集

花

此花を花子神々ト別ノ形 芭蕉
と後ちもいふく 花さるる 起波
蝶のふれまかも花子好み日ち 李院
雲をふりて花は生るる山包か 仙露
ふりて花さるる花を花さるる 雷堂
と何花中嬉しむ山の片 佳屋
花さるる山も平地も花の時 恭洲

月

月夜の静けさ

里の子や福さうりかけて月を忍び芭蕉
夕月や梅ぬ霜かたて明る酒買明
夕月や雪のちかふる雪のちか 玉雨

雪

中世をなつかりしつらさの御社
さしひさささ

鹿をなつ後も馬しきまの糸 芭蕉
夕月をなつ酒をぬめを思ふに 金峨
庭の雪を公の花をささけり 松國

同十二月部

正月

えりや先取の日々何と後 魚淵
能くはれ氣をとりなり 柳屋 玉仙
万葉や幾代を月一 笑ひ顔 松童
七種や我も此魚の料理人 松波
梅を咲せてくさすあり 留之 野梅
浅梅乃 春好さ知る白ひり 露圓
浅梅や 表御門の鈴くはみ 徳布

西月とてさき出さくは梅の糸 雄跡
路のさき柳のさき 輝牛
門のさき花のさき 柳のさき 荒示
烟のさき花のさき 柳のさき 和水
さき柳のさき人のさき 泉之
かれ枝もさき花のさき 柳のさき 鶏口
かれ枝のさき花のさき 柳のさき 五岸
さき花のさき柳のさき 秀國
さき花のさき柳のさき 調宇

二月

さき花のさき柳のさき 玉雨
さき花のさき柳のさき 和山
さき花のさき柳のさき 玉進
さき花のさき柳のさき 馬好
さき花のさき柳のさき 羊秋
さき花のさき柳のさき 立因
さき花のさき柳のさき 林明
さき花のさき柳のさき 竹雅

新屋千春の眠さふりり十曉
りてまゝに花女も由り西り忌温克
長由や折く後子りけりてる所小知
いづれあり風をくゆる力り好賀亭
たさゆふ好風を好くし胡蝶を好御延
一松り式をうけける接木ふふ輕舟
みまぬやせれまゝり海印り川夫成
一人のほ又ふまゝとがいつまゝふ藏六
まゝまゝや報ハ柳の折次古信徳

三目

新柳や右近左との柳さくら座 柳方
永ふりもむせりしまはゆ干ふ 和養
あさくらや花も宮の玉柳さくら 寛之
人ハ又てりり 柳さくらさくら 江鯉
寺さくらや花さくら花の夕 柳 風馬
らりり又ほめり花や山さくら 柳 素練
山さくらさくら花の尾 柳さくら 左達
あさくらや花さくら又咲さくら 柳 花明

五月月花と多戸の狭く那 甜雪
 年よりの茶と由り花の山 蘭示
 山吹のこころ似る恨く那 超波
 さげし仁まらう 山さる三外
 手をつらぬ娘の取らふ春く那 新車
 波のこもてもみ拭ふさ 茶福ふ 里舟
 苗代やまゝなるもさる 水の上 万声
 と鈴はふと何思ひ出く急進お 石崩
 花よめくは鐘と剛く 行まき 沾峨

四月

何と善次や座ぬ子燭く那 まの尾橋 和水
 那とすあくの心く那く 文魚
 ころんとお急の怪と也杜 馬好
 坊と印し何まゝなるもさる 亞提
 まゝなるもさるもさるなり 温克
 何と善次や座ぬ子燭く那 雪堂
 池水やゆくとやゆくと 万楚
 何と善次や座ぬ子燭く那 善次

く川鰻内人教ふもさういふこと 長章
吉原と一切は嬉し 神鰻 調宇
水戸と二宮と守り守り 龍波
くく英の森もさうなる 廊下 英富
さうさうと花のらりふく 牡丹川 東澗
卯の糸平室あまのまうにふ 六全
舟のふのつとやたのさう皮のま 玩音
二宮あまの 郊外とまま 河東
あまあまの 山家が 山彦

五月

三人の影と五人の ちあえうね 書香
はつやと土切揚し 時つと 亀岱
くくこの田と極也 春路
早乙女や朝はさうさう 水くみ 菜坡
神の風をさうさう 松府
うねつとさうさうの 筆端
さうさうと 菖の遠り 菜陽
花よめの 花の 訥子

あやふやまゝと根野白む皮むら 來儀
おほい子の家玉を産む事師乃 烏雪
ららるるや色保くえてホリ経路有
鬼不舎や風吹入ぬ産妻中 基卿
河骨やゆや一里んハ水の中 菊歳
月物〜風〜と又重き岩の隻 米富
蓮葉や己と月をな 釣つと先 虎班
甲〜〜ぬ〜と〜とや 杜〜 超波
舟の子のあまねく物〜 堤〜 買明

六月

菫よ〜川割〜〜と沙〜が 霍父
隣〜風河〜と〜と 祇南
祇〜〜と 佛供〜日陰〜と〜と 魚江
ね〜〜と 針〜〜と 呉〜と 塵匣
葛山や甲の嶺は落るよ〜の川 來筌
〜〜と 籠〜と〜と 存〜と 常仙
幾人〜一〜と〜と〜と 仙木子
夕〜と〜と〜と 田の〜と〜と 珪璋

土用下三ハ風流さく〜たり 斗宴
秋の徳の海もやき〜や 鳴子風 全史
志多ぬ人と並ん〜結ぶは水ふ 官李

巴伊ちの 画賛

夕立の人を左へく 巴 柳 其角
晴あ〜風流つ〜ま田うね 甜雪
夕立也〜も〜も 柳の下 守孝
甲斐も〜つね〜瓜の盛るね 呼童
涌出〜水の〜〜川 泉 柳 斗園

七月

机控〜〜えあ〜らば〜と 鈴の秋 雷堂
新魚や能も鏡中〜夏のせえ 英洲
ふ〜やあ〜りよまぬ 蓮の飯 寛之
移書や〜〜流〜ら〜〜後 山 昔原
又〜人のふ〜てま〜 稲の糸 壽兆
口〜〜や〜あ〜い〜時〜と〜口〜の〜ま〜 嗽石
志〜〜の〜雅〜か〜よ〜ま〜ま〜は〜ま〜 待亮
ね〜〜て〜り〜人〜あ〜〜み〜と〜あ〜節〜ま〜 菊里

晴城やいさ出さぬも志海に記佳屋
土信陽子刈りのけり角力師 亭湖
第市や露の世と経る曉下 万川
月しけの秋やてうき確ふ 亘同
よのゆきやあふぬしらぬ首力取 秀露
氣味よも森定さむる 鶴うか 男松
ゆきふや我をえうさる 祐とや 杜若
そのせの月やいさ記さぬ小庭に 宗之
まゆさく果きぬさる所ふ那 百遊

八月

八歌やきねらう中の海島に 三冬
ろくろ我もいさ川の新法所 玉進
ろくろ中梁やもあぬ崖の松 曾嵐
志波中鳥さるるゆきふかぬ 風馬
何人、笛の音さるる存の秋 掉歌
草のよの茶入買りり月の鳥 徳布
我の身は林屋よとてく雨の月 買明

晴さるる月のあふるさるる
雨のちりさるる

かうねぶと葉のほろやまき 露菊
十二夜塚井の水のぬきみり 玉雨
酒のまぬ人を葉や紅葉物 亀巢
元山いづの夕日とみちちふ 信德^故
色くくむあけさぬ葉くね 大漁
後日とぬきみちとぬきみち 素練
色くくぬねらりてねもみちふ 味道
けねもらのねもねく村ぬき 和養

十月

口切やむと葉のねくあれと 吳竹
くくくくくくくくくくくく 和養
福あけさぬねもねもねも 和山
又ねくくくくくくくくくく 仙李
くぬきりくくくくくくくく 菊堂
目の上の痛くくくくくく 保牛
門をくくくく入るくくくく 立因
くくくくくくくくくくくく 右雄

十一月十二月

静又世や初志也先をたき青岫
鬘金や不髪大根もき妙少下汝月
お津あをそくすも情あり秀民
道つゆ一ひきけりをわむか千局
来りて後てゆるん妙原を文洲
那くろもぬ昔もやりき丸墨河
路次入り朝のつらりりり阿能
道申つるゆへ節や時れや雪車

くろく火もき中比寒を仏先農
まらしむ我らつふの衣ふ明湖
くまあを思ひよるや言樓浮尺
ソレもたれろもをす所をくね^正杉風
接して座りあやうりも忘双我
あき辭と家例とあつけも忘仙舎
つりぬ急つりれとも一おふ和山
義の一字今や解り大晦日魚淵
年の屋戸も残しる鐘の後笙和

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

祝 買明 七千妙法

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

追加 四木子

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

老う年をくもれてハ老るるのくもれてハ買明

追加

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

梅の香 幸 筆端

きりぎりすをかくるのちかきりぎり
かきりぎりすをかくるのちかきり
世にきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり
かきりぎりすをかくるのちかきり

武藏國江戸住
三浦若海圖書



